

# ボッチャ (ユニバーサルボッチャ)

## プログラムの概要・ねらい

ボッチャは、子どもから高齢者まで男女を問わず、障がいのある人も一緒にでき、ボールを投げて、蹴っても、転がしてもよいユニバーサルスポーツ。1984年にパラリンピックの正式種目になった。

場所	プレイホール、集いのホール、学習室 AB		
時間	1 時間 30 分～		
値段	無料		
季節	年間	人数	36 人まで
準備物			
【利用者】 体育館履き (プレイホールを使用する場合)、活動に適した服装、救急用品、メモ用紙、筆記用具など			
【自然の家】 ボッチャ用具一式 (3 セット) セット内容: ボール 13 個 (白 1、赤 6、青 6)、審判用具 (パドル 1、スケール 1)、マニュアル			

## ① 準備

サービスセンターで、活動する施設の鍵とボッチャ用具一式を受け取る。

## ② 実施の流れ

### ●ボッチャのルール (自然の家簡易版)

・1対1で行う個人戦、2対2で行うペア、3対3で行う団体戦がありますが、自然の家では最大6対6で行うゲームも可能。

・1チーム6個のボール (赤または青) をジャックボール (白) に近づけるようになる。

・投げる順番 (自然の家簡易版は、スローイングボックスは設定しません)

1. 赤チームの人がジャックボール (白) を設定したコートの中へ投げる。

(2 ゲーム目は青チームの人が投げて、後は同じ要領)

2. 同じ人が赤ボールを投げる。

3. 青チームの人が青ボールを投げる。

4. これ以降はジャックボールに遠いほうのチームの人が投げる。

5. 一方のチームの投げるボールがなくなれば、もう一方のチームが連続して投げる。

・ジャックボールや他のボールに当たっても、そのまま続ける。

・ジャックボールがコートの外に出たとき、ジャックボールを「所定の場所: 通常はクロス」に戻す。「所定の場所」は、各自で設定する。

・得点 (右下の図)

1. 双方のチームの最もジャックボールに近いボールを比較し、どちらが近いかを判定 (赤)

2. ジャックボールに遠かった方のチーム (青) のジャックボールに一番近いボールとジャックボールを結んだ線を半径とし、ジャックボールを中心とした円を描き、その円の中に何個赤ボールがあるかを数える。その数が得点となる。(右下の場合は赤 3 点)

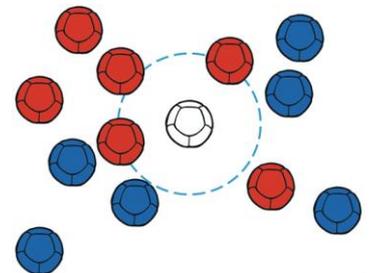
3. 「1」がまったく等距離のときのみ 赤 1 点 : 青 1 点 となる。

●簡易版: ジャックボールに近いボールのチームが勝ち。一番近いボールが同じ距離だった場合は、二番目に近いボールで判定する。

・個人戦とペア戦は3ゲーム、団体戦は5ゲーム行い勝敗を競う。

・自然の家では、ランプス (勾配具: 補助スロープ) 等の準備はありません。

※安全には十分に気を付け、けがのないよう留意する。



## ③ 後片付け

備え付けの掃除用具で、使用した場所の清掃、施錠をおこなう。

使用した場所の鍵とボッチャ用具一式をサービスセンターへ返却する。

器具や用具に破損や故障があった場合は、サービスセンター受付に申し出る。